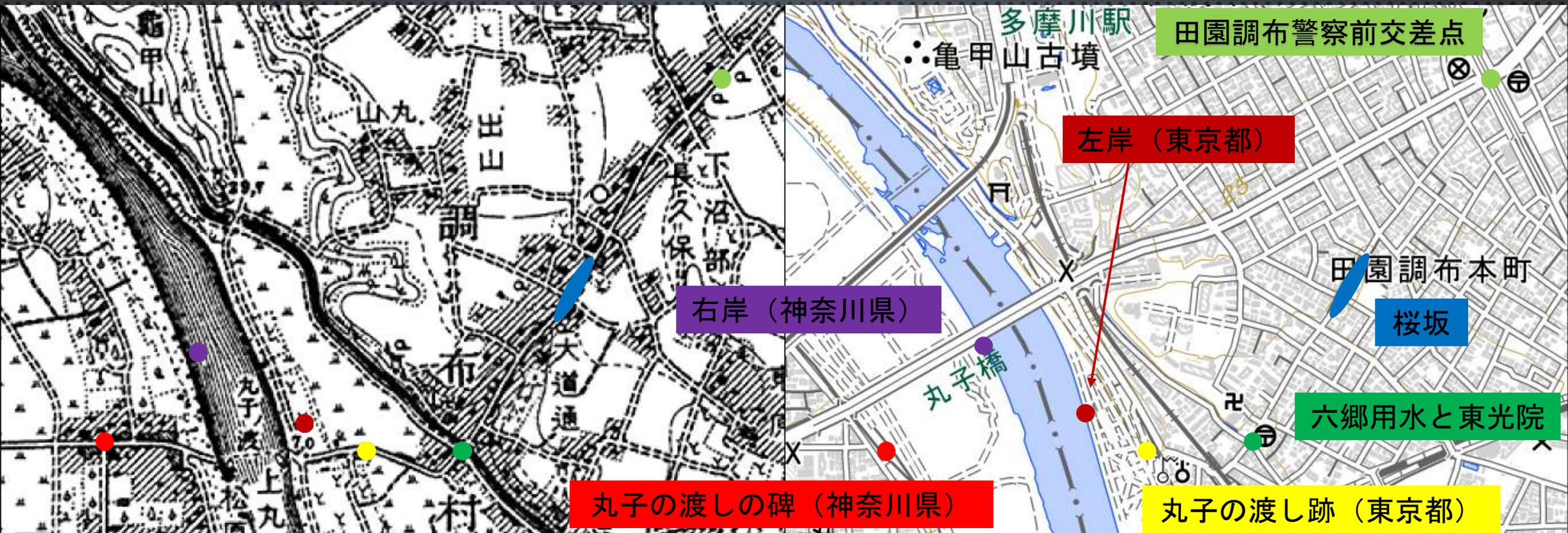


中原区の変化と問題

18N1020 宇於崎佑真

環八通り～丸子の渡し



この区間は、現在の中原街道とは別のルートをとっている。
多摩川を渡るための場所として江戸時代から重要な役割を果たしていた。
1934年に丸子橋ができるまでは丸子の渡しがあり、様々な人や物が船で行きかっていた。
今でも『丸子の渡し祭』などで渡し船の体験が行われたりしている。

六郷用水と東光院



田園調布警察前交差点



桜坂



昔は沼部大坂といい今よりも勾配の急な坂だった。

丸子の渡し（神奈川県）

旧中原街道



丸子の渡し跡（東京都）

旧中原街道



右岸（神奈川県）

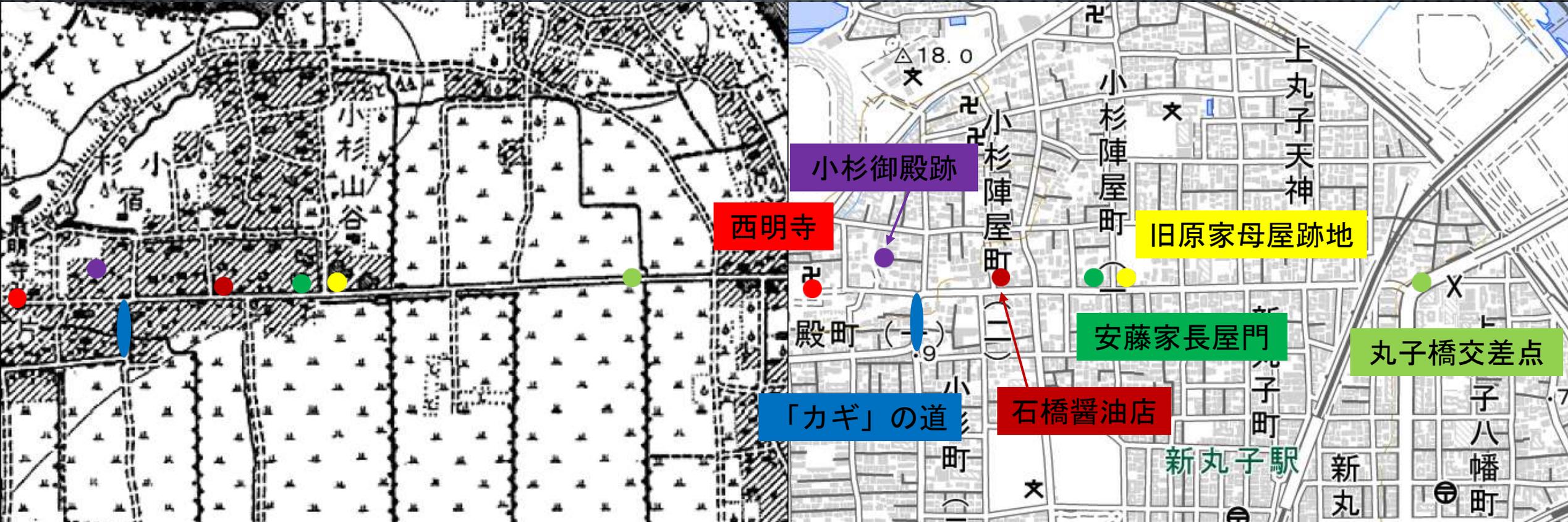


丸子橋から丸子の渡しが行われていたと思われる場所の現在の様子を望む。左が東京都側、右が神奈川県側。河川敷は氾濫防止などのため整備されているが船がとまれそうな岸も両岸に整備されている。

左岸（東京都）

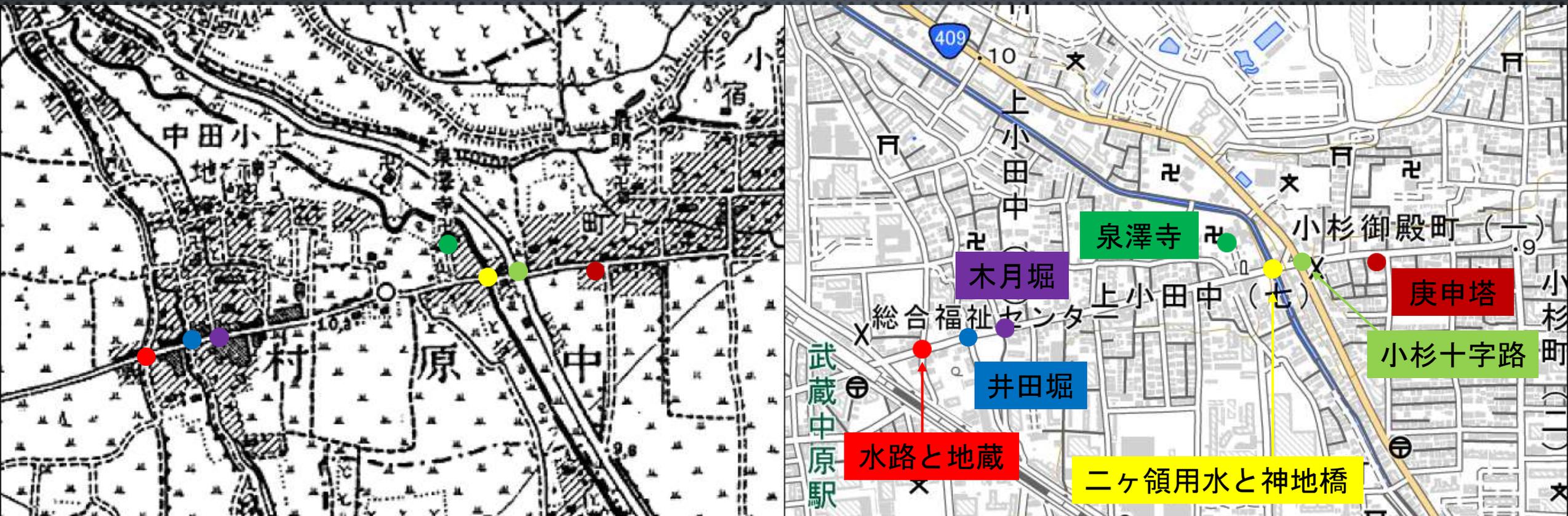


丸子の渡し～「カギ」の道



この区間は、中原街道の宿場町『小杉宿』が存在していた。
東海道が整備されるまで小杉御殿があり、栄えていた。
その御殿を守るために城下町などでも用いられる「カギ」の道がつけられたため、特徴的な道の形が残っている。

「カギ」の道～武蔵中原駅



この区間は、かつて水路が多く通っていて今も名残が残っている。
中原街道とかつての水路が交差するところには地蔵が今も多く存在している。
また、小杉十字路は中原街道と府中街道が交差する場として重要な役割を持っていた。



地蔵

井田堀



水路と地蔵



二ヶ領用水と神地橋



地蔵

水路(堀)

水路と地蔵の組み合わせが多い。



地蔵

水路(堀)



泉澤寺



庚申塔



木月堀

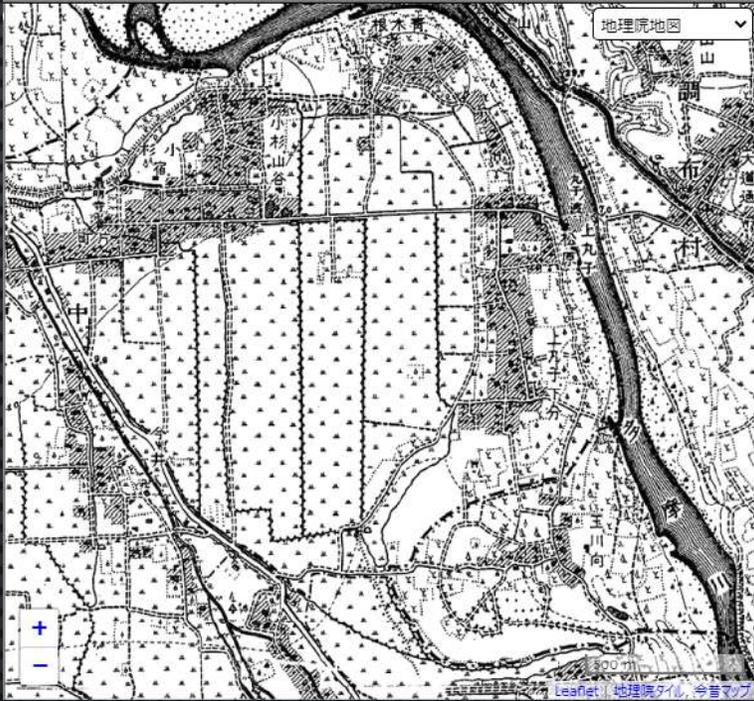
水路(堀)



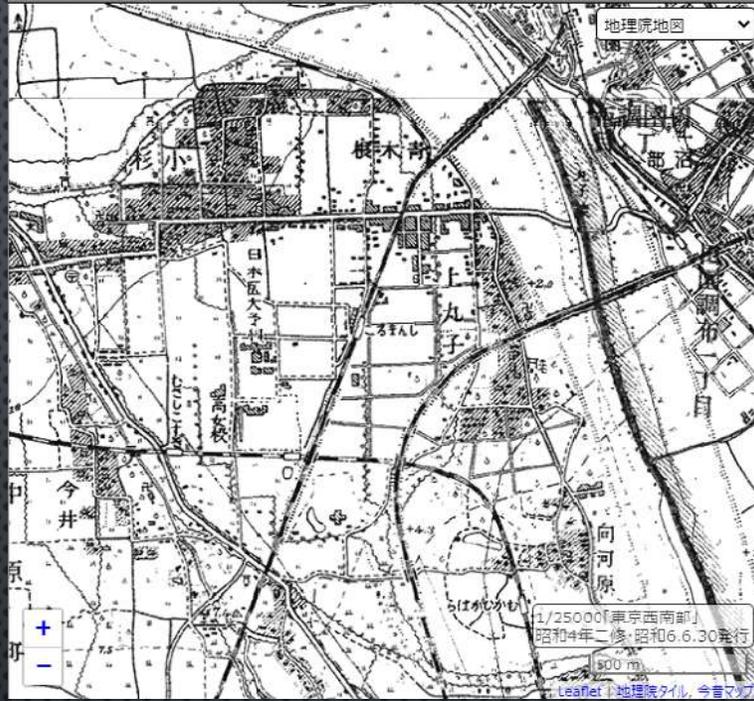
歩道には昔の情景を模したものが所どころ存在していた。



小杉十字路



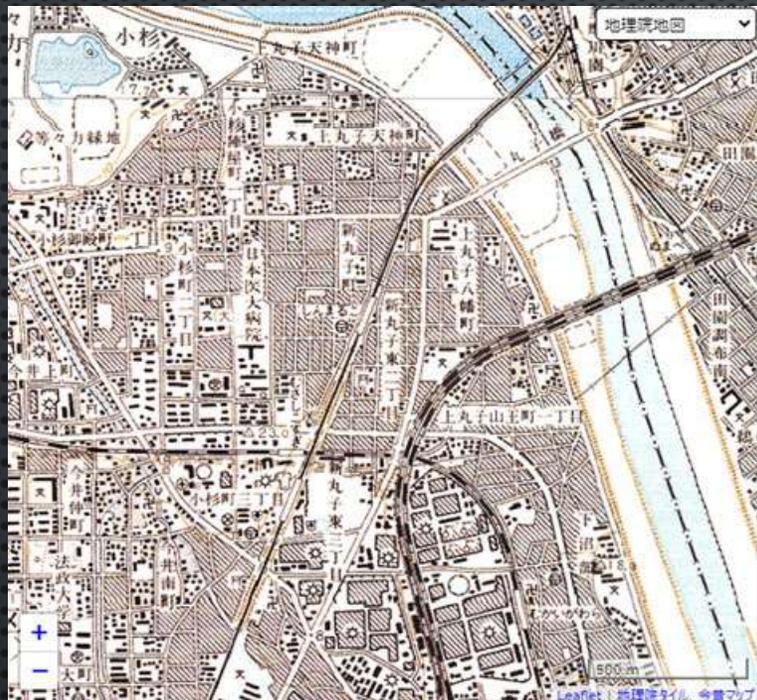
1900年頃まで
江戸と相模国を結ぶ中原街道の
宿場町として発展。
多摩川を渡る「丸子の渡し」が
整備されていた。
農業が盛んな土地であった。



1930年頃
1926年の東京横浜電鉄(東急
東横線)、1927年の南武鉄道
(JR南武線)と続けて鉄道が
開業した。
1934年には丸子橋が建設さ
れた。



1950年頃
鉄道と道路の整備と戦争
の空襲を受けることによ
り住宅や工場が多く建設
された。



1965年頃
駅の整理が行われいくつかの駅が廃止となり、現在と同じ位置に武蔵小杉駅が誕生した。



1970年頃～2000年頃
1972年に川崎市が政令指定都市となり中原区が誕生、等々力緑地が整備され様々な施設がつけられた。



現在
2010年に横須賀線の武蔵小杉駅も誕生した。武蔵小杉駅周辺の工場が壊され跡地に商業施設やタワーマンションが建設されている。

町の中心が鉄道の整備とともに徐々に南に移動しているのが分かる。

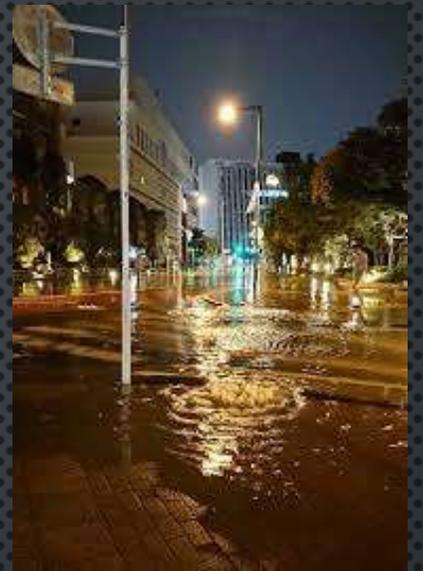
近年、中原区は人口、世帯数ともに急激に上昇している。また、少子高齢化が進んでいる日本では珍しくかなり平均年齢が低くなっている。



様々な問題が
発生

台風19号による浸水問題

この問題は今年の台風19号によってもたらされた問題である。
下水道管を逆流してきた多摩川の水があふれて中原区の一部を浸水させた。
これによって、タワーマンションではエレベーターやトイレが使えなくなったり、
JR線の改札が故障したり、地下道が冠水したり様々な問題を引き起こした。



なぜこのようなことが起こったのか？

武蔵小杉駅周辺はここ数年での開発により雨水が地面に吸い込まれる場所が急激に減ってしまった。また、下水管の整備や雨水貯蔵施設の不足により排水が十分できる設備が整っていなかった。それに今回の異常な雨量が重なったため、内水反乱を防ぐために多摩川に汚水を放流していたが、そこから多摩川の水が逆流してきてしまった。逆流を防ぐために水門を占めることも可能であったようだが、その場合も雨水による浸水は起こる可能性があったそうである。





分流式下水道

雨水と汚水を別々の管で流すため、降雨時に汚水が川や海へ放流されないが、別々の管を布設するので、埋設位置に制約を受けるとともに費用がかかる。



合流式下水道

雨水と汚水を同じ管で流すため、1つの管布設のための費用が安く、浸水解消と水洗化を同時に行えるが、降雨時に汚水が川や海へ放流される。

川崎市下水道は東西で別々の布設方法がとられている。中原区は主に合流式下水道が用いられている。そのため、降雨時は下水の処理が間に合わないため汚水が多摩川に放流されているが、台風19号の際は多摩川が想定以上の水位に達していたため放流していた部分から多摩川の水が逆流し浸水の被害を受けた。

この他の問題

ビル風問題

日陰問題

通勤ラッシュ・渋滞問題

地域の交流の問題



実際に歩いてみて...

浸水問題

今回、実際に歩いてみて武蔵小杉駅周辺は小さな高低差が意外と多くあることに気づいた。また、アスファルトやコンクリートなどに地表が被われている部分が多く雨水のほとんどが排水溝などに流れ下水道に流されてしまうように感じた。



ビル風問題

低木などを植樹して風を遮るなどの工夫がなされているがあまり効果が発揮されていないように感じた。タワーマンション群に近づくにつれて体感的には風が強くなった。



日陰問題

この問題に関してはタワーマンションの建設を取りやめる以外あまり改善方法がないように感じた。

通勤ラッシュ・渋滞問題

ホームの拡張や改札の増設、車両数の増結などの計画や工事が進められていて一定の期待は持てるように感じた。道路の拡張の計画も広範囲でされていた。



まとめ

中原区は道路や鉄道が敷設されたことにより移動手段が確立され、どんどんと発展していったことが分かった。

その発展のスピードが急激だったことがこの町の特徴で、それによって様々な問題が浮き彫りとなってきたことも分かった。今それらの問題に対処してよりよい街をつくろうとしているが、対応が後手であるため思うように進んでいないのが現状であるように感じた。また、解消が難しい問題も出てきてしまっていることも分かった。これらのことから計画的な町づくりを行うことがとても重要であるように感じた。

感想

今回のフィールドワークを通して自分が20年弱暮らしてきた町でも知らないことがたくさんあると感じた。特に、自分が実際に目にしてきた発展に関しては知っていても、それ以前の歴史に関してはあまり知らなかったことにきずいた。これからは建築や都市を考える上で歴史からみた町の形成を考えられるようにしていきたい。